

A Semantic Analysis of Sentences Such As “*Wang Mian Sile Fuqin* (王冕死了父亲)” in Mandarin Chinese

YOKOYAMA Masako

Keywords: possessive sentences, existence-appearance sentences, formal semantics, propositional logic, predicate logic

Abstract

This paper discusses the meaning and construction of sentences such as “*Wang Mian Sile Fuqin* (王冕死了父亲)” in Mandarin Chinese, called “possessor-subject possessee-object sentences (possessive sentences)”. In this sentence, the intransitive verb *si* “die” seems to take two arguments, as object and subject, which have a possessive relationship. It is unclear why some intransitive verbs like *si* “die” can occur with both object and subject. The paper proposes logical structures of possessive sentences described using propositional logic and predicate logic. On the basis of these logical structures, the paper argues that possessive sentences should be classified as “existence-appearance sentences”, and point out the meaning of possessive sentences is “appearance” or “disappearance”.

“王冕死了父亲”の論理意味分析

横 山 昌 子

要 旨

現代中国語には、“王冕死了父亲”（王冕は父親が死んだ）のように自動詞が目的語を伴う現象が見られる。この文の形式的特徴は、“死”が自動詞であるにも関わらず、“王冕”と“父亲”の二つの名詞句を伴っていることである。しかし、この文が表しているのは“父亲死了”（父親が死んだ）であり、主語位置の“王冕”と動詞“死”は直接意味関係を持たない。また、“王冕”と“父亲”は所有者（領有者）と所属者（隷属者）の関係にあり、この文は“王冕的父亲死了”のように変換できる。このため、このような文を「領有者主語－隷属者目的語文」¹⁾（以下、「領属文」と呼ぶ）と呼ぶことがある。領属文の主な分析としては、これを独立した構文とする説や「存現文」であるとする説、また「混合」方式によって生成されるとする説などがある。筆者は、この文を広義の「存現文」と考える。本論では、この形式の文が存現文と同じ論理構造を持つことを論理式で明示し、この文を「存現文」と捉えることの妥当性を論証する。論理構造の表記には、命題論理（Propositional Logic）²⁾と述語論理（Predicate Logic）³⁾を基本とする式を用いる。

キーワード：領属文 存現文 出現消失文 述語論理 形式意味論

はじめに

范晓（2009）によれば、領属文とは「 $N_1 + V + N_2$ 」構造で、 N_1 が所有者、 N_2 が所属者の関係にある文である。広義に捉えるならば、領属文には V が他動詞のものも含まれるが、 V が他動詞の場合 N_1 と N_2 は所有者と所属者の関係であると同時に、動作主と受動者（対象）の関係にある。本論で問題とする文は、「 $N_1 + V + N_2$ 」の目的語の N_2 が意味上 V の主体である文で、たとえば次のような文である。本論では、このような文を「領属文」と呼ぶことにする。

（1）王冕死了父亲。（王冕は父親が死んだ。）

（2）他来了三个客人。（彼に三人の客が来た。）

このような文を統語的、意味的にどのように捉えるかについてはこれまでに多くの議論がなされているが、本論では形式意味論の角度から領属文を分析する。また、分析の結果に基づき、先行研究で議論されているいくつかの問題について本論の見解を述べる。

1 先行研究

“王冕死了父亲”のような自動詞が二つの名詞句を伴い「 $NP_1 + V + NP_2$ 」の構造を持つ文をどのように分析するかは、研究者によって主張が異なっている。これらの主張を整理すると、独立した構文と捉える見方、存現文とらえる見方、「混合」方式による見方に大別できる。

1.1 独立した構文と捉える見方

「 $NP_1 + V + NP_2$ 」構造を持つ領属文を独立した構文と捉える見方は、

NP₁が一般名詞（人あるいは事物）で、かつ NP₁と NP₂の間に所有関係があることから存現文とは統語的、意味的に異なるとするものである。統語的な派生の説明としては生成文法理論による分析があるが、研究者によって異なる移動説が提示されている。所有格が移動すると考える説では、深層構造に「NP₁的 NP₂」の構造があり NP₁が文頭に移動するとされている（徐杰 1999 など）。たとえば“王冕死了父亲”では、深層構造は“死了王冕的父亲”で、名詞句“王冕的父亲”中の NP₁“王冕”が主語位置に移動して“王冕死了父亲”が生成される。しかし、この分析の難点は、“王冕”の移動の原理を説明できないことである。“死”は非対格動詞なので非対格動詞の移動規則に従うとしても、“王冕”は深層構造ですでに所有格を持っているため、その格をキャンセルして主語位置に移動する理由がないからである。

1.2 存現文と考える見方

任鷹（2009）は、「領属」と「存現」は認知的に同一の意味範疇に属するため、同一の統語形式で「領属」義と「存現」義を表すと述べている。任鷹は、次のような存現文と領属文の統語的相似性について次のような例を挙げている。

- (3) a. 家里有两个孩子。（家に二人の子供がいる。）
- b. 店里来客人了。（店に客が来た。）
- c. 班里跑了一个学生。（クラスから一人の学生が抜け出した。）

（任鷹 2009:309）

これらの文は「場所＋動詞＋存現者」の構造を持つ存現文に属し、(a) は存在、(b) は出現、(c) は消失を表す。任鷹によれば、これらの存現文の文頭の成分を場所成分から非場所成分に替えると領属文になる。

- (4) a. 老李有两个孩子。（李さんには二人の子供がいる。）

b. 他来客人了。(彼に客が来た。)

c. 张老师跑了一个学生。(張先生から一人の学生が抜け出した。)

(任鷹 2009:309)

任鷹は、領属文の一般的構造を「人または事物＋動詞＋所属者」とし、「所有者が所属者を所有、獲得、喪失する」ことを表すと述べている。上記の例からわかるように、存現文と領属文は、文頭の成分が場所か非場所かという違いはあるが、文頭の成分が動詞と直接関係を持たず、意味上目的語が動詞の主体であるという点で相似的な構造を持っている。任鷹は構造上相似的な両者は、構文が表す意味も近く、存現文が「出現、存在、消失」を表すのに対応して領属文は「取得、所有、喪失」を表すと述べている。

また、刘晓林 (2007) は、「出現」、「存在」、「消失」の意味を表し、「存在場所＋(存在) 動詞＋存在物」の構造を持つ文は存現文と見なせると述べ、「王冕死了父亲」は広義の存現文であると主張した。刘晓林は、この構造中の(存在) 動詞は一般的に自動詞の静態動詞で、文頭の成分は「環境成分」と述べている。また、この環境成分は一般には非有性物であるが、一定の条件の下で類推機能が働き有性名詞や人物名詞になりえるとし、次のような例を示した。

(5) a. 我军牺牲了五名战士。

(我が軍から五名の兵士が犠牲になった。)

b. 五团牺牲了五名战士。

(五团から五名の兵士が犠牲になった。)

c. 张团长牺牲了五名战士。

(張団長のところで五名の戦士が犠牲になった。)

(刘晓林 2007:441)

一般的には、上記の例のうち (a)、(b) の文頭成分は場所と捉えられ

るので存現文として問題ないが、(c)は文頭成分が人物名詞なので領属文に属する。刘晓林は、これらの三つの文の違いは文頭の環境成分が細分化され、生命度が(a)から(c)へ段階的に高くなっているだけであり、文としてはすべて「消失」の意味を表すので「広義の存現文」と見なせると述べている。刘晓林によれば、文頭の環境成分が細分化されるのは、環境成分をより具体的に述べようとする語用論的目的からであり、このような要請の下で言語の類推機能が働き、環境成分が生命度を増強すると説明している。

1.3 沈家煊（2006）の「混合」説

沈家煊(2006)は、“王冕死了父亲”の生成過程について、それ以前に提出されていた生成文法理論による各分析の問題点を指摘し、構文文法(Goldberg 1995)に基づき「混合」方式による生成過程を提案した。沈家煊は、“王冕死了父亲”は「王冕は父親が死んだことにより損失を受けた」ことを表すが、“王冕的父亲死了”や“王冕, 父亲死了”は「王冕の父親が死んだ」という事実のみを表し、“王冕经历了父亲死了”も王冕の経験を述べているだけであるという理由から、この文が「混合」(blending)によって生成されると主張した。沈家煊によれば、“王冕死了父亲”は“王冕的父亲死了”と“王冕丢了某物”の二つの文の混合により生成され、次のような生成過程を持つ。

- (6) a. 王冕的某物丢了 b. 王冕丢了某物
x. 王冕的父亲死了 y. — ← xb 王冕死了父亲

(沈家煊 2006: 296)

沈家煊は、この混合による造文の過程を次のように説明している。“死”は自動詞のため、“王冕死了父亲”という言い方はない。そのため、y 項は初めは空白であるが、新しい言い方が創出された後、a と b の関係が x

と y の関係に対応する。すなわち、 $a:b::x:y$ の形式が成立する。この y 項が創出した文が、 x 項と b 項の混合物で、 b 項が構造の枠組み、 x 項が語の項である。沈家煊は、この混合を「類推混合」と呼び、「 y は x を基礎にし、 a と b の関係に基づき b を参照して新しい文を類推する」と述べている。 b 項は「類推源項」とされ、この類推源項の述語の目的語から y 項の“父親”が類推される。沈家煊は、このような造文の方法は「類推混合」による造語のメカニズムと本質時には同じであると述べている。

筆者は、沈家煊の分析には二つの点で問題があると考ええる。第一に、沈家煊は“王冕死了父亲”や“我来了两个客户”のような領属文の表す意味を「受損」、「受益」としているが、「受損」、「受益」の意味は文の構造から生成される論理的な意味ではなく、派生的な意味である。形式的類似性からこれらの文が存現文と関係していることは明らかであり、「受損」、「受益」の意味は「出現」、「消失」の意味から生じていると考えるのが自然である。第二に、「受損」、「受益」を表す「類推源項」として、これらの文の構造とは異なる構造の文を選択していることである。沈家煊は、「類推源項」に“王冕丢了某物”が選択されるのは“王冕死了父亲”と「意味的にも形式的にも相似している」からであると述べているが、前者の“王冕”が動詞“丢”の項で動作主あるのに対し、後者の“王冕”は動詞“死”と意味的關係を持たないので意味的に類似しているといえない。

2 本論の見方

現代中国語において、非対格動詞が表層構造で「V+NP」構造を構成する文には存現文と呼ばれる構文があり、典型的には「場所+V+NP」の構造を持つ。刘晓林（2007）は、存現文の文頭の場所成分は「環境成

分」であるとし、このように解釈することで“王冕死了父亲”のような文も広義の存現文と捉えられると主張した。本論も、いわゆる領属文は統語的あるいは意味的に存現文と同じ構造を持つと考える。確かに、存現文と領属文は文頭の成分が「場所」と「事物（所有者）」という点に大きな違いがある。范晓（2009）は、「NP₁+V+NP₂」構造の存現文と領属文は文頭成分の違いにより別の文型に属し、これらは語用論上表す意味が異なると述べている。

(7) a. 动物园逃走了一头老虎。(領属文)

(動物園では一頭の虎が逃げだした。)

b. 动物园里逃走了一头老虎。(存現文)

(動物園から一頭の虎が逃げだした。)

(范晓 2009:252)

范晓によれば、領属文は N_i が持つ事物に起こった状況や状態を表し、存現文は N_i (場所) において起きた存現の状況を表す。問題は、このような語用論的な意味の違いが統語構造や意味構造の形成に決定的に関わっているのかということである。上記の文は、統語的にも意味的にも近似している。統語的には、両者の述語の動補構造“逃走”(逃げる)は目的語“一头老虎”(一匹の虎)を伴い非対格動詞として機能している。また、文頭成分の“动物园”、“动物园里”は共に動詞と直接関係していない。意味的には、“逃走”の主体は“一头老虎”で「一匹の虎が逃げた」ことを表す。また、(a)の“动物园”と“一头老虎”の間には所有関係があるが、(b)の“动物园里”と“一头老虎”の間にも「範囲(存在場所)」と「要素(存在物)」という広い意味の所有関係が存在する。このことから、領属文と存在文は統語的、意味的に同じ構造を持つと想定しうる。このことを論証するために、本論では領属文と典型的な存現文の論理構造を記述し両者が同一の論理構造を持つことを示す。論理構造の記述には、形式意味

論の基本的な方法論である命題論理 (Propositional Logic) と述語論理 (Predicate Logic) を用いる。

3 存現文の論理構造

まず、存現文の論理構造を分析し、本論の捉え方を提示する。存現文は、存在文と出現消失文に大別でき、さらに出現消失文は出現文と消失文に分類できる。

- (8) a. 家里有两个孩子。(存在文)
- b. 店里来客人了。(出現文)
- c. 班里跑了一个学生。(消失文)

((3) 再掲)

これらの存現文は共通して「場所 + V + N」構造を持ち、動詞の前には場所が生起し、目的語の N は不特定である。それぞれの文は、ある場所においてある物が「存在」、「出現」、「消失」することを表す。以下では三つの類に属する文の意味構造を論理式で記述する。

3.1 存在文の論理構造

朱德熙 (1982) によれば、存在文中の動詞は状態を表す。動詞としては“坐着”、“住着”、“躺着”のように状態動詞が用いられるか、“写着”、“贴着”、“挂着”のように動作動詞が用いられ動作の後のある状態を表す。朱德熙は次のような例を挙げている。

- (9) 黑板上写着字。(朱德熙 1982: 114)
- (黑板に字が書いてある。)
- (10) 床上躺着一个孩子。(朱德熙 1982: 115)
- (ベッドに一人の子供が横たわっている。)

この論理式を説明しよう。論理式の下に付されたカタカナは、論理式を簡易的に解釈するための補助的な「読み」である。一番外側の式「有」[黑板上、～]は、文全体が持つ「場所がある状態を持つ」という論理関係を表すが、これは「～ニ～トイウ状態ガアル」と解釈できる。存在文における「場所」は主語というよりは「話題 (topic)」であり、「～が～という状態を持つ」という文型意味を表す「有」関数の α 項に生起する。存在文では状態の主体は不確定なので「話題」(または副話題)として抽出されないため β 項は現れず、「有」関数は α 項と γ 項の 2 項から構成さ

れる。 γ 項は、この文の持つ命題の意味で状態を表す。存在文「場所+V+N」のNはVの「動作主」または「対象」である。この式では、 γ 1に動作“写”（書く）の対象“字”が現れている。なお、動作主は表層上現れないので ϕ （ファイ）と表記されている。 γ 2は、動作の結果“字”が黒板に付着（残存）していることを表している。この付着は“写”という動作の結果なので、ここで「時相」⁴⁾が充足する。 γ 2はアスペクト“着”によって「動作の結果の持続」を表し、広い意味の「着点」が現れている。

続いて、(10)の“床上躺着一个孩子。”の論理構造も記述してみよう。この文に含まれる要素命題は、「子供が一人いる」、「一人（の子供）が横たわる」、「一人（の子供）がベッドにいる」、「一人（の子供）がベッドにいたことが持続する」である。それぞれの命題は、述語論理を用いて「有'（孩子，一个）」、「躺'（一个）」、「在'（一个，床上）」、「有' {在'（一个，床上），着|}」と表記できる。これらの命題は同時に成立するので、連言「&」で結ばれ複合命題「有'（孩子，一个）& 躺'（一个）& 在'（一个，床上）& 有' {在'（一个，床上），着|}」を構成する。また、文全体は「場所がある状態を持つ」という論理関係を表すので、「有' [床上，～]」と表記できる。これらを含む全体の式は次のようになる。

$$\begin{array}{ccccccc}
 & \text{オリ} & \sim\text{ガ} & \text{ヒトリ} & \text{横タワリ} & \sim\text{ガ} & \text{オリ} & \sim\text{ガ} & \sim\text{ニ} \\
 (10') & \text{有' [床上, 有' (孩子, 一个) \& 躺' (一个) \& 在' (一个, 床上) \& } \\
 & \text{アル} & \sim\text{ニ} & & & & & & \\
 & a & & \gamma\ 1-1 & & \gamma\ 1-2 & & \gamma\ 2 & \\
 & \text{スル} & \sim\text{ガ} & & \text{[持続]} & & & & \\
 & \text{有' {在' (一个, 床上), 着|} } & & & & & & & \\
 & & \sim\text{トイウ状態ガ} & & & & & & \\
 & & \gamma\ 3 & & & & & &
 \end{array}$$

この式の一番外側の「有'」関数の a 項には「話題」として、場所を表す“床上”（ベッドの上）が生起している。 γ 項は命題の意味を表し、 γ 1-1と γ 1-2で“一个孩子”が“躺”という動作の「動作主」であるとい

う「意味役割」が表示されている。 γ 2 は、 γ 1-2 の動作の結果動作主“一个孩子”が“床上”にいることを表しているので動作が結果を持ち、ここで「時相」が充足している。 γ 3 は、アスペクト“着”によって「動作の結果の持続」を表す。朱德熙は、存在文に現れる“着”について、動作の持続を表すのではなく事物の位置を表すと述べている。つまり、存在文の“V 着”は動作の結果事物がある場所に存在するという状態にあることを表し、本論では、これを「動作の結果の持続」と捉える。

3.2 出現文の論理構造

出現文はある特定の場所に事物が出現することを表す。たとえば、次のような例文がある。

(11) 对面来了一个人。(朱德熙 1982: 114)

(向いから一人の人が来た。)

(12) 屋里飞进来一只蜜蜂。(朱德熙 1982: 114)

(部屋の中に一匹のミツバチが飛んで来た。)

まず、(11) の文の論理構造を記述する。この文に含まれる要素命題は、「人が一人いる」、「一人の人が来る」、「一人の人が来る事が実現（完了）する」、「一人の人が来たという事態が向いに起きた」である。それぞれの命題を述語論理で表すと「有' (人, 一个)」、「来' {有' (人, 一个)}」、「有' [来' {有' (人, 一个)}, 了]」、「有' [有' [来' {有' (人, 一个)}, 了], 对面]」となる。これらの命題は同時に成立するので命題論理の連言「&」で結ばれ、全体の式は次のようになる。

(11') 有' (人, 一个)&来' {有' (人, 一个)} &有' [来' {有' (人, 一
 オリ ~ガ ヒトリ キ ~ガ シ ~ガ
 γ 1-1 γ 1-2 (γ 2) γ 3-1

个)}, 了]&到' [有' [来' {有' (人, 一个)}, 了], 対面]
 [完了] オコル ~ガ ~ニ
 γ 3-2

この式はこの文の持つ命題の意味を表す。 γ 1-1 は“人”が不特定であることを表し、 γ 1-2 には、“人”が“来”（来る）という動作の「動作主」であるという「意味役割」が表示されている。“来”という動作は瞬間的な動作で動作内部に終息点を持つのでここで「時相」（ γ 2）が充足している。 γ 3-1 は、[完了]のアスペクト“了”によって動作が実現したことを表す。 γ 3-2 は、“来了一个人”（一人の人が来た）という事態が“対面”（向い）という場所に起きたことを表す。“対面”は事態の発生場所であり、「着点」である。この発生の意味と“来”という動作の意味から「出現」の意味が生じる。

この文の文頭の“対面”は、語用論的には「話題」として機能している。そこで、 γ 3-2 に現れている「～ガ～ニオコル」という論理関係を、発生場所を話題として「～ニ～ガオコル」という論理関係に変換すると、この論理関係は「有' (a , γ)」のように表記できる。 a には話題の“対面”が生起し、 γ にはこの文の命題の意味を表す (11') の複合命題が生起する。話題を表示した全体の式は次のような式になる。

(11'') 有' [対面, 有' (人, 一个)&来' {有' (人, 一个)} &有' [来' {有'
 オコル ~ニ ~ガ ヒトリ キ ~ガ シ
 a γ 1-1 γ 1-2 (γ 2)
 ~ガ [完了] オコル ~ガ ~ニ
 (人, 一个)}, 了]&到' [有' [来' {有' (人, 一个)}, 了], 対面]
 γ 3-1 ~トイウコトガ γ 3-2

この式では、 γ 3-2 の「～ガ～ニオコル」という意味は文型意味を表す

3.3 消失文の論理構造

消失文は、ある特定の場所から事物が消失したことを表す。たとえば、次のような例文がある。

(13) 村子里死了一个人。(朱德熙 1982: 115)

(村で一人の人が死んだ。)

(14) 他们家跑了一只猫。(朱德熙 1982: 115)

(彼らの家から一匹の猫が逃げた。)

まず、(13) の文の論理構造を記述しよう。この文に含まれる意味として、「村に人がいる」、「人が一人いる」、「一人の人が死ぬ」、「一人の人が死ぬことが実現（完了）した」、「一人の人が死んだことが彼らの家に起きた」という要素命題が抽出できる。それぞれの命題を述語論理で記述すると、それぞれ「有'（村子里，人）」、「有'（人，一个）」、「死' {有'（人，一个）」、「有' [死' {有'（人，一个）」、了]」、「到' [有' [死' {有'（人，一个）」、了]，村子里]」となる。それぞれの命題は同時に成立するので、連言「&」で結ばれ、全体の式は次のようになる。

(13') 有' (村子里，人)&有' (人，一个)&死' {有' (人，一个)} & 有'
 オリ ~ニ ~ガ オリ ~ガヒトリ 死ニ ~ガ シ
 γ 1-1 γ 1-2 γ 1-3 (γ 2)

[死' {有' (人，一个)}，了]&到' [有' [死' {有' (人，一个)}，
 ~ガ [完了] オコル ~ガ
 γ 3-1 γ 3-2

了]，村子里]
 ~ニ

この式には、この文の命題の意味が現れている。γ 1-1 は、「村子里」（村）という場所に「人」がいるという広い意味の所有関係を表示している。γ 1-2 は「人」が「一个」（一人）という数量を持ち、不特定であること表している。γ 1-3 では、「一个人」（一人の人）が「死」（死ぬ）と

いう状態変化の「対象」であるという「意味役割」が現れている。“死”は瞬間動詞で内部に終息点を持つので、ここで「時相」(γ 2)は充足している。 γ 3-1は、[完了]のアスペクトにより“死”が実現したことを表す。 γ 3-2は、“死了一个人”(一人の人が死んだ)という事態が“村子里”(村)に起こったことを表す。“村子里”は事態の発生場所であり、「着点」である。発生の意味と“死”の持つ「存在がなくなる」という意味から「消失」の意味が現れている。

(13')の式はこの文の命題的意味を表しているが、この文では“村子里”は「話題」である。場所を話題とした発生の意味は、「 $\sim$ ニ $\sim$ ガオコル」という論理関係で捉えられる。これを論理式で表すと「有'(a , γ)」と表記できる。 a に“村子里”、 γ に(13')の式を代入すると、次のような式になる。

$$\begin{array}{l}
 \text{(13'')} \text{ 有' [村子里, 有' (村子里, 人) \& \text{有' (人, 一个) \& 死' } \{ \text{有' (人,} \\
 \text{オコル} \quad \sim \text{ニ} \quad \quad \quad \gamma \text{ 1-1} \quad \quad \quad \gamma \text{ 1-2} \\
 \quad \quad \quad \text{シ} \quad \quad \quad \sim \text{ガ} \quad \quad \quad \text{[完了] オコル} \quad \quad \quad \sim \text{ガ} \\
 \text{一个) \& 有' [死' } \{ \text{有' (人, 一个) \}, \text{了] \& 到' [有' [死' } \{ \text{有' (人,} \\
 \gamma \text{ 1-3 (} \gamma \text{ 2)} \quad \quad \quad \gamma \text{ 3-1} \\
 \quad \quad \quad \sim \text{ニ} \\
 \text{一个) \& 了], 村子里]]} \\
 \quad \quad \quad \sim \text{トイウコトガ} \\
 \gamma \text{ 3-2}
 \end{array}$$

次に、(14)の文“他们家跑了一只猫。”の論理構造を示す。この文に含まれる要素命題は、「彼らの家に猫がいる」、「猫が一匹いる」、「一匹の猫が逃げる」、「一匹の猫が逃げる事が実現(完了)した」、「一匹の猫が逃げたことが彼らの家に起きた」である。それぞれの命題を述語論理で表記すると、「有'(他们家, 猫)」、「有'(猫, 一只)」、「跑' {有'(猫, 一只)}」、「有'[跑' {有'(猫, 一只)}, 了]」、「到'[有'[跑' {有'(猫, 一只)}, 了],

(14) 有' [他家, 有' (他家, 猫)&有' (猫, 一只)&跑' {有' (猫,
 α γ 1-1 γ 1-2 γ 1-3
 一只)}&有' [跑' {有' (猫, 一只)}, 了]&到' [有' [跑' {有' (猫,
 γ 2) γ 3-1 γ 3-2
 一只)}, 了], 他家]]
 ~トイウコトガ

4 領属文の論理構造

本論では、“我来了客人”や“王冕死了父亲”のような領属文は、「出現」あるいは「消失」の意味特徴を持ち、広義の存現文と捉える。ここでは、領属文の論理構造を明示し、これらが存現文と基本的に同一の論理構造を持つことを示す。

4.1 「出現」を表す領属文

まず、次の領属文を分析する。

(15) 他来了三个客人。(= (2))

(彼に三人の客が来た。)

この文に含まれる意味を分解して捉えると、「客が三人のいる」、「三人の客が来る」、「三人の客が来る事が実現（完了）した」、「三人の客が来る事が、彼に起きた」という要素命題が抽出できる。これらの命題を述語論理で表記すると、それぞれ「有' (客人, 三个)」、「来' {有' (客人, 三个)}」、「有' [来' {有' (客人, 三个)}, 了]」、「到' [有' [来' {有' (客人, 三个)}, 了], 他]」となる。これらの命題は同時に成立するので、命題論理の連言「&」で結ばれ、全体の式は次のようになる。

(15) 有' (客人, 三个)&来' {有' (客人, 三个)}&有' [来' {有' (客人,
 オリ ~ガ ~サンニン キテ ~ガ シ ~ガ
 γ 1-1 γ 1-2 (γ 2) γ 3-1

三个)}, 了]&到' [有' [来' {有' (客人, 三个)}, 了], 他]
 [完了] オコル ~ガ ~ニ
 γ 3-2

この式は、文の持つ命題的意味を表している。 γ 1-1 は、不特定の“客人”（客）が三人いること表す。 γ 1-2 では、“三个客人”（三人の客）が“来”（来る）という動作の「動作主」であるという「意味役割」が表示されている。また動作主が“三个”という数量を持つことで論理的には動作が三回あることになり量化されるので、ここで「時相」（ γ 2）が充足する。 γ 3-1 は、[完了]のアスペクト“了”によって動作が実現したことを表す。 γ 3-2 は、“来了三个客人”（三人の客が来た）という「出現」の事態が“他”（彼）に起きたことを表す。“来了三个客人”は“他”にとって予測せぬ事態、あるいは制御できない事態であり、そのため“他”は事態の成立には関与しない。“他”は「出現」の事態の「受け手」であり、「着点」を表す。

(15')は「他来了三个客人。」という文の持つ命題の意味を表しているが、語用論的にはこの文の「他」は「話題」である。この文が表す意味は「彼に三人の客が来たという事態が起きた」という意味なので、この論理構造を「有' (α , γ)」を用いて表記し、 α 項に「他」を、 γ 項に命題の意味を表す (15') の式全体を代入すると、次のような式になる。

態が β に起きたことを表す。これらの命題は同時に成立するので、連言「&」で結ばれる。全文の式は次のようになる。

$$(16) \text{ 有' (王冕, 父親) \& 死' (父親) \& 有' \{死' (父親), 了\} \& 到' [有'}$$

$$\begin{array}{ccccccc} \text{オリ} & \sim \text{ニ} & \sim \text{ガ} & \text{死ニ} & \sim \text{ガ} & \text{シ} & \sim \text{ガ} \text{ [完了]} \text{ オコル} \\ & \gamma \text{ 1-1} & & \gamma \text{ 1-2 (} \gamma \text{ 2)} & & & \gamma \text{ 3-1} \end{array}$$

$$\begin{array}{c} \text{\{死' (父親), 了\}, 王冕]} \\ \sim \text{ガ} \quad \sim \text{ニ} \\ \gamma \text{ 3-2} \end{array}$$

この式の γ 1-1 には、“父親”（父親）が“王冕”の父親であるという所有関係が現れている。また、 γ 1-2 では、“父親”が“死”（死ぬ）という状態変化の「対象」であるという「意味役割」が表示されている。“死”は瞬間動詞⁵⁾で動作内部の開始点と終息点が重なっているので、ここで「時相」は充足する。 γ 3-1 では、[完了]のアスペクトによって、父親が死ぬことが実現（完了）することを表す。 γ 3-2 は、父親が死んだという事態が“王冕”に起きたことを表し、「着点」が表示されている。この「発生」の意味と“死”の持つ「(死んで) いなくなる」と意味から「消失」の意味が生じる。この式で確認しておくべき点は、 γ 1-1 において、“王冕”と“父親”の間に「所有者」と「所属者」という「所有関係」が存在することが示されていることである。この関係は「出現」を表す領属文には生起していない。これは、「出現」を表す文では、「出現」という事態が発生する前には、「出現者」と「受け手」の間にまだ所有関係が成立していないからである。一方、「消失」を表す文では「消失者」が消失する前に存在していたことが明らかである。

(16') の式はこの文の命題的意味を表しているが、語用論的にはこの文は「王冕に、父親が死んだという事態が起こった」という意味を表し、“王冕”が「話題」を表している。そこで、“王冕”を“話題”とした式に書き換えるために、「 $\sim \text{ニ} \sim \text{ガ}$ オコル」という意味を表す関数「有' (α ,

γ)」を用いる。この式の a に“王冕”を、 γ に (16') の式全体を代入すると、次のようになる。

$$\begin{array}{ccccccc}
 & \text{オリ} & \sim\text{ニ} & \sim\text{ガ} & \text{死ニ} & \sim\text{ガ} & \text{シ} & \sim\text{ガ} & [\text{完了}] \\
 (16'') & \text{有'} & [\text{王冕, 有'} & (\text{王冕, 父親})\&\text{死'} & (\text{父親})\&\text{有'} & \{\text{死'} & (\text{父親}), \text{了}\} \\
 & \text{オコル} & \sim\text{ニ} & & & & & & \\
 & a & & \gamma\ 1-1 & & \gamma\ 1-2\ (\gamma\ 2-1) & & \gamma\ 3-1 & \\
 & \text{オコル} & \sim\text{ガ} & & \sim\text{ニ} & & & & \\
 & \&\text{到'} & [\text{有'} & \{\text{死'} & (\text{父親}), \text{了}\}, & \text{王冕}] & & \\
 & & \sim\text{トイウコトガ} & & & & & & \\
 & & \gamma\ 3-2 & & & & & &
 \end{array}$$

この式の a 項には、この文の「話題」である“王冕”が表示されている。この式は、「王冕に、王冕の父親が死ぬという事態が起こった」という「消失」の意味を表している。「 $\sim\text{ニ}\sim\text{ガオコル}$ 」という意味は、「有' (a , γ)」によって現れているので、 $\gamma\ 3-2$ の「 $\sim\text{ガ}\sim\text{ニオコル}$ 」という意味を表す式「到' [有' {死' (父親), 了}, 王冕]」は削除できるが、“王冕”が「着点」であることを明示するためにそのまま残す。式全体を見ると、 $\gamma\ 3-2$ の「着点」である“王冕”が文型意味を表す関数「有' (a , γ)」の a 項に生起していることがわかる。 $\gamma\ 3-2$ の“王冕”は「着点」であると同時に、「消失」という事態の「受け手」であり広い意味で「消失場所」を表す。よって、「有' (a , γ)」の a は存現文の消失文と同様に「消失場所」と捉えられる。

5 問題の考察

前節では、領属文の意味生成過程を分析し、これら文の表す意味が出現消失文と同様の論理構造によって生成されることを示した。ここでは、この分析に基づき、先行研究で議論された問題の中から、次の二つの問題を取り上げ考察する。第一の問題として、存現文と領属文から N_2 を前置した「 N_1 的 $N_2 + V$ 」構造への変換について取り上げる。任鷹 (2009) は存

現文と領属文が統語的に相似的な変換方式を持つという現象を指摘し、両構文においてこの変換が成立する理由を両者が確立する意味の相関という観点から分析している。筆者は基本的にこの見方に賛同するが、両者の相関は論理構造中に明示的に表れていることを述べる。第二の問題として、沈家煊（2006）が“王冕死了父亲”の生成過程について「混合説」を主張する根拠とした「損失」義の問題を取り上げる。沈家煊は、この文が成立する環境の考察から、この文が単なる客観的事実ではなく「損失」の意味を表していると述べている。本論では、「損失」の意味は派生的なもので、この文の構造が表す本来的な意味は「消失」であることを述べる。

5.1 「N₁的 N₂+V」への変換

存現文と領属文は共に「N₁+V+N₂」構造を持つが、任鷹（2009）は、この構造中のN₂を前置して「N₁的 N₂+V」に変換できるかどうかについて、次のような相似的な事実があること指摘した。

(17) a. 头上戴着帽子。(頭に帽子をかぶっている。)

→? 头上的帽子戴着。

b. 店里来客人了。(店に客が来た。)

→? 店里的客人来了。

c. 村子里死了一位老人。(村で一人の老人が死んだ。)

→村子里的一位老人死了。

(任鷹 2009:310)

(18) a. 老李戴着帽子。(李さんは帽子を被っている。)

→? 老李的帽子戴着。

b. 他来客人了。(彼に客が来た。)

→? 他的客人来了。

c. 王冕死了父親。(王冕は父親が死んだ。)

→王冕的父親死了。(王冕の父親が死んだ。)

(任鷹 2009:311)

(17) は存現文で、(a) は「存在」、(b) は「出現」、(c) は「消失」を表す。任鷹によれば、(c) の「消失」文は「 N_1 的 $N_2 + V$ 」構造に変換できるが、「存在」文と「出現」文では許容されない。(18) は領属文で、任鷹はこれらの文の表す意味をそれぞれ「所有」、「取得」、「喪失」であるとしている。このうち「喪失」を表す (c) の文は「 N_1 的 $N_2 + V$ 」構造に変換できるが、(a) の「所有」と (b) の「取得」を表す文では許容されない。任鷹は、存現文において「消失」文でのみこの変換が成立する理由について、「出現」、「存在」、「消失」は「存在」の異なる段階にあるためだと述べている。「出現」は「存在」の開始、「消失」は「存在」の停止を表す。また、「存在」は存在場所と存在物が所有関係にあると解釈できるので、「出現」は所有関係の確立、「消失」は所有関係の消去と理解できるとしている。この所有関係は、「消失」文では動作行為が実現する前に存在するが、「出現」文では動作行為の実現の後に形成され、「存在」文では動作行為と共に現れる。つまり、(17) の (a) の存在文と (b) の出現文では“头上的帽子”、“店里的客人”という所有関係が動作行為の実現の前にはまだ成立していないので、「 N_1 的 $N_2 + V$ 」構造にできないのである。任鷹は、(18) の領属文においても、(c) では所有関係が動作行為の前に成立しているため「 N_1 的 $N_2 + V$ 」構造が許容されると述べている。このことは、本論の論理分析の結果と一致している。(18) の (b) の文を前節で提示した論理式に基づき記述してみよう。

(18b) 他来客人了。

(18b') 有' (客人)&来' (客人)&有' 来' (客人), 了}&到' [有' 来'
 オリ ~ガ キ ~ガ シ ~ガ [完了] オコル
 γ 1-1 γ 1-2 (γ 2) γ 3-1

(客人), 了}, 他]
 ~コトガ ~ニ
 γ 3-2

この式では、 γ 1 には“他”(彼)と“客人”(客)の間の所有関係は現れない。なぜならば、「来'(客人)」(客が来る)という「出現」の事態が起こる前に“他”と“客人”の間には所有関係が存在しないからである。このことをより詳細に明示するならば、次のように表記できる。

(18b'') 有' (客人)&来' (客人)&有' 来' (客人), 了}&到' [有' 来'
 オリ ~ガ キ ~ガ シ ~ガ [完了] オコル

(客人), 了}, 他]&有' (他, 客人)
 ~コトガ ~ニ イル ~ニ ~ガ

この式では、「所有関係」は最後の式に現れている。つまり、事態の発生後に所有関係が成立することを表す。次に、(18) の (c) の文を考察する。この文は (16) の文と同じであるが、(18c) として再掲する。

(18c) 王冕死了父親。

(18c') 有' (王冕, 父親)&死' (父親)&有' 死' (父親), 了}&到' [有'
 オリ ~ニ ~ガ シニ ~ガ シ ~ガ [完了] オコル
 γ 1-1 γ 1-2 (γ 2) γ 3-1

{死' (父親), 了}, 王冕]
 ~ガ ~ニ
 γ 3-2

この式では、 γ 1-1 の「有'(王冕, 父親)」において、“王冕”が「所有者」、 “父親”が「所属者」であるという所有関係が現れている。なぜならば、“王冕”と“父親”の所有関係は事態の発生の前に存在し、それが

「父親が死んだ（いなくなった）」という事態によって「消失」したからである。このことをより明確に表すならば、次のように表記できる。

(18c) 有' (王冕, 父親)&死' (父親)&有' {死' (父親), 了}&到' [有'
オリ ~ニ ~ガ シニ ~ガ シ ~ガ [完了] オコル

{死' (父親), 了}, 王冕]& 有' (王冕, 父親)
~コトガ ~ニ イナイ ~ニ ~ガ

この式では、第一式に「所有関係」が現れ、最後の式に「所有関係」の「消失」が現れている。

5.2 “王冕死了父亲”の「損失」義

沈家煊 (2006) は、“王冕死了父亲”において、“死了父亲”（父親が死んだ）は“王冕”が受けた「損失」を表すと述べている。沈家煊がこのように主張したのは、次のような言語事実に基づく。

(19) a. 王冕七岁上死了父亲。

(王冕は七歳で（＝七歳なのに）父親が死んだ。）

b. ?王冕七十岁上死了父亲。

(?王冕は七十歳で（＝七十歳なのに）父親が死んだ。)

(沈家煊 2006:295)

沈家煊によれば、(19) の (b) の文は不自然になるが、異なる構文を用いた場合は成立する。

(20) a. 王冕七十岁上他的父亲死了。

(王冕が七十歳の時に彼の父親が死んだ。)

b. 王冕, 七十岁上父亲死了。

(王冕は、七十歳の時に父親が死んだ。)

(沈家煊 2006:295)

(19a) の文は“王冕七岁就死了父亲。”(王冕は七歳という幼さで父親が死んだ。)の意味であり、実際には副詞“就”の意味を含んでいる。同様に、(19b) の文も“?王冕七十岁就死了父亲。”のように“就”の意味を含むので不自然な文になる。沈家煊は、このような言語事実から“王冕死了父亲。”の構文義は「受損」である述べ、この文は“王冕的父亲死了”と“王冕丢了某物”の「混合」方式により生成されると主張した。沈家煊は、(19b) の文が許容されないのは、「王冕が七十歳で父親を失くす」ことは「王冕が七歳で父親亡くす」ことより「損失」が少ないので、この構文の生成過程中的「受損」を表す類推源項“王冕丢了某物”の選択が行われず (19b) の文が成立しないからだと述べている。

このように、ある副詞表現との呼応から文の持つ意味を類推することは、一つの方法である。しかし、“王冕死了父亲”は“就”とのみ呼応するわけではない。このことは、沈家煊自身が再論として提出した論文(沈家煊 2009)中で認めている。次のように副詞“才”を用いた文では不自然さは逆になる。

(21) a. ?王冕七岁才死了父亲。

(?王冕は七歳になって父親が死んだ。)

b. 王冕七十岁才死了父亲。

(王冕は七十歳になって父親が死んだ。)

(沈家煊 2009: 19)

沈家煊によれば、副詞“才”は話者がその数量を比較的大きいと思っていることを表し、(21b) の文は、人が五十歳で父親を亡くすことが標準的だとすると王冕が七十歳で父親を亡くすのは遅い方だという意味を表し、「損失」ではなく「獲得」を表すという。沈家煊は、これは「 $N_1 + V$ 了 + N_2 」が持つ「損得」(“得失”)の意味が主観的に勘定されたからであると述べ、「 $N_1 + V$ 了 + N_2 」の構文義を、「話者は事態が損得に関わると認識

し、この損得を主観的に勘定する」と再定義した。

5.3 「消失」の持つ「意外性」の意味

前述の沈家煊の分析の問題は、“王冕死了父亲”のような文が“就”や“才”の表す「主観量」と結びつくことによって生じる意味を、“王冕死了父亲”という文の構造が持つ本来的な意味としている点である。本論は、“王冕死了父亲”のような領属文は広義の出現消失文であると考え。その理由は、このような領属文と出現消失文に共通する最も重要な意味特徴は、「予想外の」あるいは「制御不能な」事態が発生したことを表すからである。李临定（2011）は、出現消失文は「ある事が突然発生すること」あるいは「思いがけないことが発生すること」を表し、文中によく“忽然”、“突然”などが用いられると述べている。

(22) 忽然，对面床上也响起划火柴的声音（秦兆阳，李临定 2011: 131）

（突然、向いのベッドからもマッチを擦る音が聞こえた。）

このような「予想外」、「制御不能」の意味は領属文にも現れる。

(23) 偏偏又把个老王病到了。（朱德熙 1982: 187）

（あいにくまた王さんが病気で倒れた。）

この文は、「 $N_1 + V + N_2$ 」の領属文から“把”構文に変換された文である。朱德熙はこの文の“把”の目的語“老王”（王さん）に“个”（一人の）が用いられている理由について、“老王”は確定的であるが、話者が病気になるのが他の人でなく王さんだとは思ひもしなかったということを表し、この意味は“偏偏”（あいにく）によって表示されていると述べている。このことから、領属文も出現消失文と同様に「予想外」の意味特徴を持つことがわかる。これは、領属文が N_1 と所有関係にある N_2 が「出現」あるいは「消失」したことを表し、この「出現」や「消失」の事態は

N_1 が制御できないからである。このような考察から、再び“王冕死了父亲”の表す意味を検討するならば、この文が表す本来的な意味は、父親が死んだことによって受けた王冕の「損失」ではなく、父親が死んだことによって王冕に生じた父親の不在、すなわち「消失」であると考ええる。これらの意味は副詞成分によって増強されるが、増強されるのは「損得」の程度ではなく、「出現」や「消失」の「意外性」の程度である。つまり、“王冕七岁上死了父亲。”は、標準的な人が父親の死を経験するよりも幼い時に王冕に父親の死が起きたことを表し、標準的なものからの隔たりの大きさにより「意外性」が増強されていると捉えられる。また、“王冕七十岁才死了父亲。”は、標準的な人が父親の死を経験するよりも年をとった時に王冕に父親の死が起きたことを表し、やはり「意外性」が増強されている。

6 結びにかえて

“王冕死了父亲”に代表されるような「 $N_1 + V + N_2$ 」構造の領属文が統語的あるいは意味的にどのような構造を持つのかという問題については、これまでに多くの議論がなされてきた。本論では、この問題について形式意味論の立場から再検討し、これらの文が広義の存現文であることを論理式で明示した。また、任鷹（2009）の主張と沈家煊（2006）の主張を取り上げ、本論の立場から再検証した。

注

- 1) 中国語では“领主属宾句”（范晓 2009: 248 参照）。本論では、主語と目的語が所有関係にある文のうち、目的語の「所有者」が意味上の主体となっているものを、「所有者主語－従属者目的語文」（所屬文）と呼ぶ。

- 2) 命題論理 (Propositional Logic) は、形式意味論で用いられる基本的な方法論の一つで、命題 (文) と命題 (文) の関係を記述する。文の間の論理関係は、& (連言)、∨ (宣言)、→ (含意)、¬ (否定) などの結合子によって決定される。
- 3) 述語論理 (Predicate Logic) は、命題の内容 (文の内部構造) を意味論的に分析する論理言語である。基本的には命題を、述語 (predicate) と述語の要求する項 (argument) の組み合わせとして記述する。項の数により、1 項述語、2 項述語、3 項述語のように呼ばれる。
- 4) 本論における「時相」の概念は龔千炎 (1995) に基づく。龔千炎は、中国語の文の時間体系は「時相」、「時態」、「時間」によって構成されていると述べている。「時相」には命題に内在する時間特徴が現れ、主として動詞の語彙の意味によって決定される。
- 5) 龔千炎 (1995: 25-28) は、“死”を瞬間的に発生する事件を表す瞬間動詞に分類し、実現状況 (achievement situation) を表すと述べている。

参考文献

- 范晓 2009. 《汉语句子的多角度研究》。北京：商务印书馆。
- 方立 2000. 《逻辑语义学》。北京：北京语言大学出版社。
- 龔千炎 2012 (1995 初版). 《汉语的时相时制时态》。北京：商务印书馆。
- 李临定 2011. 《现代汉语句型 (增订本)》。北京：商务印书馆。
- 刘探宙 2009. 〈一元非作格动词带宾语现象〉。《中国语文》第 2 期 (总第 329 期)。
- 刘晓林 2007. 〈也谈“王冕死了父亲”的生成方式〉。《中国语文》第 5 期 (总第 320 期)。
- 刘月华・他 2001. 《实用现代汉语语法 (增订本)》。北京：商务印书馆。
- 潘海华・韩景泉 2005. 〈显性非宾格动词结构的句法研究〉。《语言研究》第 3 期。
- 吕建军 2013. 〈“王冕死了父亲”的构式归属〉。《语言教学与研究》第 5 期。
- 吕叔湘主编 2008. 《现代汉语八百词 (增订本)》。北京：商务印书馆。
- 任鹰 2009. 〈“领主”与“存现”：从概念的关联到构式的关联——也从“王冕死了父亲”的生成方式说起〉。《世界汉语教学》第 23 卷 2009 年第 3 期。
- 沈家宣 2006. 〈“王冕死了父亲”的生成方式〉。《中国语文》第 4 期 (总第 313 期)。
- 沈家宣 2009. 〈“计量得失”和“计较得失”〉。《语言教学与研究》第 5 期。
- 石毓智 2007. 〈语言假设中的证据问题——论“王冕死了父亲”之类句子生成的历史条件〉。《语言科学》第 4 期。
- 徐杰 1999. 〈两种保留宾语句式及其相关句法理论〉。《当代语言学》第 1 期。
- 熊仲儒 2012. 〈领属性致使句的句法分析〉。安徽师范大学学报：《人民社会科学版》第 40 卷第 3 期。
- 袁毓林 2001. 《汉语动词的配价研究》。南昌：江西教育出版社。

朱德熙 1982. 《语法讲义》。北京：商务印书馆。

白井賢一郎 1985. 『形式意味論入門—言語・論理・認知の世界』。東京：産業図書。

杉本孝司 1998. 『意味論 1—形式意味論—』。東京：くろしお出版。

Chao, Yuen Ren. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*. Berkeley: University of California Press.